

<「知るっば!久留米」 令和3年6月10日(木) 12:30~放送分>

筑後川と防災 ～第2回～ 「筑後川の水害の歴史」

<ゲスト：筑後川防災施設くるめウス 川嶋 睦己さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。
今月は、『筑後川と防災』をテーマにお送りしています。
ゲストはこの方です!

ゲスト:川嶋さん(以下「川嶋」)

こんにちは!
「筑後川防災施設くるめウス」の川嶋睦己です。よろしくお願いします。

坂本 先週に引き続き『筑後川と防災』の2回目は、『筑後川の水害の歴史』についてお伺いします。
筑後川は、別名「筑紫次郎」とも呼ばれ、
江戸時代には、利根川、吉野川と合わせて日本三大暴れ川に数えられていました。
なぜ筑後川は、昔から暴れ川だったのでしょうか?

川嶋 筑後川は、九州一の大河として知られています。
熊本県、大分県、福岡県、佐賀県と源流から河口まで4つの県に渡って流れていまして、
本流の長さは143キロメートルとされています。
多くの山々から流れ出した川が筑後川に流れ込むので、水の流れも多くて、
特に上流域と中流域の境界とされている大分県日田市の夜明(よあけ)というところから、
福岡県のうきは市や朝倉市にかけて、山から一気に平野部に抜けるため
災害が絶えない場所だったと言われています。
水の流れについては、上流の山間部では、時速20キロメートルくらいで流れているんですけど、
これが久留米市あたりの中流域になると時速4キロメートル程度となり、
この水流(流速)の差も洪水に大きく関係していたと言われています。

坂本 洪水が度々起こった暴れ川なんですけど、そんなに川の流れが違うんでしょうかね。
それから筑後川には、何本もの川が合流していますが、どれくらい合流する河川があるんですか?

川嶋 上流の阿蘇外輪山から河口にかけて、筑後川に合流する川の数は、
大小合わせて239本あると言われています。
それから、上流は大山川や杖立川、三隈川などと呼ばれているのですが、

福岡県になると筑後川と呼ばれるなど、地域ごとに色々な呼ばれ方をしているようです。

坂本 色々な川が集まって、大河・筑後川になっているという筑後川の長さを物語るようなお話ですね。筑紫次郎と呼ばれていたのが、現在の福岡県内での水害が多かったのですか？

川嶋 そうですね。歴史上の記録に残っている一番古い洪水は、今から1200年以上前の平安時代の西暦806年にさかのぼります。記録によりますと、「太宰府管内で水害と干ばつにより田園が荒廃し、筑後の国1ヵ年田租を免ぜられる」という記録があります。これは「大洪水と大規模な干ばつで田畑が荒れてしまい、税の徴収を1年間、免除した」という記録になります。人々の暮らしを大きく変えるような水害が、この地方で起きていたんですね。

坂本 当時は、今みたいな頑丈な堤防もなかったでしょうから、大昔の人は怖かったでしょうね。

川嶋 そうですね。室町時代になると「一夜川（いちやがわ）」と呼ばれていたようですが、これは「洪水で一晩にして、豊かな土地が荒地に変化してしまう」という言い伝えから一夜川の名前が付いたそうです。江戸時代になると、1702年5月から8月の期間に32回も洪水が発生して、当時21万石と言われた久留米藩の石高のうち、3分の2に当たる14万3千石を喪失してしまったそうです。また、幕末の1866年には、城下町が沈むほどの洪水の記録も残っています。久留米藩は、農民を動員して治水事業を行ったのですが、一向に状況が改善しなかったため、農民の怒りが久留米藩に向けられ、暴動が起きていたそうです。

坂本 すごい話ですよ。洪水が頻発すると、農民も作物ができずに大変ですし、久留米藩も財政がひっ迫して、大変な思いをしたということでしょう。しかしながら、洪水は時に恵みももたらしていたそうですね？

川嶋 そうですね。筑後平野には、洪水で多くの養分を含んだ土が流れ込んだので、あたり一帯が日本有数の肥沃な大地になり、古くから米や麦などが実る穀倉地帯となりました。

坂本 なかなか自然の力は偉大だなと思いますね。筑後川は暴れ川ですが、豊かな大地を育む存在でもあったんですね。

川嶋 それだけではなく、筑後川は上流から木材などを運ぶ「水運」の要でもあって、大分県日田市から大川市まで材木を筏（いかだ）で運搬され、大川の木工産業を支えてきました。

坂本 歴史的にみると、筑後川は交通網が発達した現代よりも、
地元の暮らしに密着していたということがよくわかります。

川嶋 そうですね。ですが、一度牙をむくと暮らしが壊れるもろさもありました。
その大きな転換となったのが、昭和28年にこの付近一帯を襲った大水害です。
今回は、その歴史にスポットを当てて、洪水の被害や治水の変化をご紹介します。

坂本 川嶋さん、興味深いお話をありがとうございました。
次回も昭和28年の水害、興味深く拝聴したいと思います。
久留米市新合川の「筑後川防災施設くるめウス」は、毎週月曜日が休館日です。
利用時間は午前9時30分から午後5時まで、入館料は無料です。
現在、緊急事態宣言中により休館中です。
宣言が明けたら、またぜひお立ち寄りください。
今回は、『昭和28年筑後川大水害の歴史』というテーマでお送りします。